

## VSUG DAY -THE FINAL-

2005年11月、Visual Studio 2005の発売に合わせてVSUGが結成された。そして10年の時を経て、その活動を終えることになった。

その区切りとして、3月5日、「ザ・ファイナル」と名付けられたイベントが、品川にある日本マイクロソフトのセミナールームで開催された。冒頭で開会のあいさつに立ったのは、当時、マイクロソフトで開発ツールのマーケティング部長だった北川裕康氏だ。

「幅広く開発者をサポートするため、JWNTUGやPASSJのようなコミュニティが欲しいと思って翔社社の岩切さんに相談してできたのがVSUG。ロゴマークの3つの輪はユーザー、スポンサー、メーカーのつながりを表している」と設立の経緯を語り、運営と参加者に感謝の言葉を述べた。



感謝を述べる北川裕康氏

続く基調講演では、マイクロソフトのエバングジリスト、井上章氏が「ビジュアルスタジオ過去、現在、そして未来」と題して、ビジュアルスタジオの過去バージョンから最新の情報について紹介した。

現在でもビジュアルスタジオ97や6.0の情報もネットに残っていることを示した上で、Azure仮想マシンにインストールされたビジュアルスタジオ2003を起動してみせた。コンピュータの性能が大幅に向上しているため、起動はすばやく、会場から驚きの声が上がった。「バージョン2003を使ったのは2002が64ビット環境にインストールできないため」とのことだ。



入社前の3年は社外での活動だったという井上章氏

実際に、C#によるASP.NETのプロジェクトを作成し、Webアプリケーションをビジュアルに開発できるWebフォームや開発サーバーを使わずIISを使ってホストするようすや、ビジュアルソースセーフなどを紹介した。一方、最新版のビジュアルスタジオ2015では、ウィンドウズに限らず、すべてのアプリ、すべての開発者を対象にしていることを訴えた。

こうした近年のマイクロソフトの「オープン性」(Openness)は、サトヤ・ナデラ氏のCEO就任がきっかけとされているが、それ以前からオープンソースのプラットフォームであるコードプレックスなどは運営されていた。また、2014年の「BUILD」というイベントで発表された.NETのオープンソース化がターニングポイントとされているが、2010年の「MIX」というイベントではjQueryの採用が発表され、開発者のジョン・レシング氏が基調講演に登壇している。決して急激な変化というわけではないということが語られた。

また、2002年の.NET登場時に放送されたテレビコマーシャルを紹介し、「お客様のニーズに、すばやく変化できる」というメッセージは今も通用するものだとした。

最後にクロスプラットフォームに対応する.NETコアなどがゴライプライセンスで提供されることを紹介し、最新版でのデモが披露された。

### TFS/VSTSの変遷と、これからのDevOps時代に向けての開発

お昼休みを挟んだ午後は、まずビジュアルスタジオのMVPである亀川和史氏が、バージョン管理ツールについて解説した。

開発者にとって、エディタやコンパイラといった開発そのものに次いで必要とされるものがバージョン管理ツールであり、1982年のRCSから始まる主要ツールについて紹介した。マイクロソフト製品では、広く使われたビジュアルソースセーフや前身としてマイクロソフトデルタという製品があったことを紹介し、今日のチームファウンデーションサーバー(TFS)やビジュアルスタジオチームサービス(VSTS)を解説した。

とくに開発対象がウィンドウズに限定されていた従来とは異なり、2013年以降はクロスプラットフォームへの対応、パートナーシップの強化、オープンソースの促進、数カ月という短い期間での更新など、開発の状況が変化していることが示された。

現在のVSTS/TFSでは、Git対応のソース管理、テスト管理、自動ビルド、デプロイ、簡易負荷テストなどの機能が紹介され、DevOps時代の計画と追跡、管理、ビルドとデプロイ、テストといった分野に対する機能が提供されていることが示された。

VSTSの更新内容を自分のブログで翻訳していることを紹介して締めくくられた。



「はじめて買ったのはQuick C for Windows 1.0」

### オレたちとビジュアルスタジオとの関係を話そう

VSUGでフォーラムのボードリーダーを担当していた石野光仁氏、青柳臣一氏、社本明弘氏、そして都合により参加できなかった渋谷宏明氏に代わり石坂忠広氏が登壇して、ビジュアルスタジオの歴史や思い出深いエピソードなどが語られた。

石野氏が手持ちのサーフェスの仮想マシン上に、.NET以前のものも含め、ビジュアルスタジオの全バージョンをインストールして動作するようすを見せながら、それぞれのバージョンがどのように進化してきたかが解説された。ときどき「お宝写真」としてMSDNマガジンのバックナンバーや、イベントの参加証なども紹介された。

ビジュアルスタジオ2002/2003で粗削りだった機能がその後のバージョンでなくなったり、ビジュアルスタジオ2005が色んな面で安定したバージョンであることが紹介された。

また、ASP.NET WebatrixやC#(シーオメガ)、ライトスイッチなどの実験的な製品についても触れた上で、消滅してしまった機能や現在の主要機能の基盤となっていることなどが説明された。

「うっかり」ウィンドウズフォンについては触れられなかったが、ときどき脱線しつつも登壇者の開発愛が感じられる時間だった。



参加者も古いバージョンから使っている人が多い

### フォトギャラリー







# V S U Gへの感謝を込めて

傍観者の立場で偉そうなことは言えないが、長期に渡りコミュニティを運営するという事は、たやすいことではない。長く続いている勉強会もあるが、開発技術が変遷しやすいものであり、ビジュアルスタジオ自身が大きく変化することを考えても、10年に渡って運営が続いてきたことは、やはり驚きである。

それはもちろん、運営に関わってきた方、参加された開発者、そしてスポンサー協力されたメーカーの尽力あつてこそのものである。ロゴマークが示す3つの輪が、まさにうまく絡み合った証左でもある。

もともとV S U Gの運営に関わってきた方々は、皆、V S U G発足前から開発コミュニティの中心的存在として知られていた人ばかりだ。最近問題視されがちな言葉を使えば、そうした方々の「やりがい搾取」してしまっているのではないかとすら考えたこともある。

今では「SNS」という言葉も古めかしく聞こえるほどに「ソーシャル」な活動は一般化している。マイクロソフト自身がしっかりとオープンソースに取り組んでいることも理由の一つだろうが、コミュニティによる情報は確実に増えている。

「だから、安心してやめられるんですよ」という言葉もあつた。これが「発展的解消」という表現がふさわしい例だろう。

もつとも、学校を卒業しても「同窓会」というものがある。いつかまた集まることができたら、今日のように楽しい時間を過ごせるだろう。

## アーキテクトはテクノロジーの進化にどのように対応してきたか

アーキテクト・パネルの時間は、マイクロソフトの榎原彰氏と萩原正義氏、グロースエクスパートナーズの鈴木雄介氏、OSKの小井土亨氏がパネラーとして登壇し、モデレータをV S U G運営委員の福井厚氏が努めた。

まず、「ビジネス要求に対して、どのように技術をマッチングするか」というテーマが取り上げられた。

萩原氏は「技術が収益性を満たすかどうかを考えた提案が必要で、業務系の古い分野では既存のテンプレートや仕様が決まっているもの、そこで収益を増やすことは難しい。新しいことを始めるには小さく始める、早く失敗するという守りと攻めの両面が必要」と語った。

榎原氏は「ステークホルダーにどんなタイプの人がいるかをリストを作ったり概要図を作ったり整理し、どんな要求を持っているのかを見極める。非機能要求は、それぞれの立場で異なる視点を持っているので、それを確かめることが重要」とした。

鈴木氏は「古いシステムにおける複雑さは当時は有意義だったとしても、捨てるべきかもしれない。その必要性をお客様に確認して、判断する。人間は時間軸に沿って考えることが得意なので、そういう形で分析し、どこまでやるかを考える」と述べた。

小井土氏は「こちらはパッケージを売るビジネス。パッケージのニーズとは何か、エンドユーザー、SE、業務側の仕様を決めるメンバーをコントロールして、説明できるようなものを考える」とした。

「どのように最新技術をキャッチアップするか」というテーマでは、すべてをカバーすることは難しいので得意な分野をいくつか持つこと、情報を集めるには自らが発信することが重要、話を聞くだけではなく実際に自分で試してみることで、複数の技術を関連付けて学んでいくといった議論がなされた。

アーキテクトを目指す若者に、パネラーからの熱いメッセージが送られて締めくくられた。

イベントの最後は、ビジュアルスタジオの元PM陣が裏話を披露し、その後、9人の登壇者によるライトニングトークで締めくくられた。



www.comipo.com



### ライトニングトーク

### 懇親会

イベントの後、有志が集まって懇親会が催された。Windows Phoneなどが当たるビンゴ大会もあり、おおいに盛り上がった。



### 編集部より

もう一点、昔話が楽しいのはジジイの証拠と理解した上で、楽しい時間を過ごすことができたということもある。改めて、すべての皆様に感謝の気持ちを贈る。

去年、マイクロソフトの技術者向けイベントである「デコード2015」で新聞制作の声をかけていただいたのだが、残念ながら、今年は仕事の都合で参加できそうにない。その代わりというわけではないが、自主的に「V S U G新聞」を作ってみることにした。マイクロソフト在籍当時から、たいして協力する機会がなかったというか、お任せしっぱなしだったので「最後のご奉公」という意味もある。

思いついたのは数日前だったので、事前準備は何もなく、V S U G事務局にも相談していたわけではない。当日、写真を撮る許可をいただいただけで、井上章氏からは「エヴァンジェリストはフリー素材」という言葉もいただいた。

ただ、帰宅後に、ついテレビを見続けてしまったため、作業に取り掛かったのは日付が変わってからのというありさまだった。それでも「この日」に公開したかった。

# 10年間ありがとうございました!